





阿蘭陀外科明鑑校萃

目錄

一 論寒熱虛實風溼濕篇

一 寒門

一 熱門

一 虛門

一 實門

一 風門

一 痰門
一 濕門

目錄終

阿蘭陀外科明鑑校革

論寒熱虛實風痰濕病

夫人之為病有四曰寒也曰熱也曰虛也曰實也凡一切之瘡腫雖曰無於其名狀極唯切以別於寒熱虛實風痰濕而正為綱也此以先為寒者溫之為熱者冷之為虛者補之為實者瀉之為風者驅之為痰者順之為濕者道之而解散於其毒則自氣血和順而以身安病痊矣

阿蘭陀傳來曰諸瘡瘍觀考治療方術其端多雖曰更勝

而難數唯宜考寒熱虛實風痰濕之七而後扶隨時搗宜
變應而治療外無於由此勝也趣左篇述之平

○實門

○阿蘭陀傳來曰夫實証之候初發先其色赤焮熱腫高而
堅硬也惡寒壯熱大便結小便澀心胸煩悶恍惚而不寧
口苦咽乾口舌生瘡鼻自赤卧驚睡語而咬牙且脈洪大
而數是則實腫之表證初發之狀也

○開右膿滴而後必熱退疼止二便調和心神安寧且脈和
平或微小瘡邊瘡膿也鮮明而稠粘以不臭隨膿水之滴
下見清正覆益之生肉自不藥而安是則右開後表之證
也

○虛門

○阿蘭陀傳來曰夫虛証之候初發先瘡起平其根大而勝
不高其色身色而不赤敢不痛表冷裏熱瘡形不踈最無
光自汗盜汗二便瀉洩心神勞卧而腰脚沉重其脈微細
而軟是則虛腫之表症初發之狀也

○開疔後發熱焮腫疼甚腫邊赤有廣走竅言或不知二便
之洩其脉却浮洪數大也膿水清稀色薄黑而不鮮最不
粘其臭難向於鼻腫疔不廣內有廣深淵而肉也黑心氣
恍惚而目視不正也是則疔開疔之表症也

○熱門

○阿蘭陀傳來曰從熱為生腫物為陽屬實其色先赤而疼
強腫邊赤熱腫堅高而根淺重者惡寒發熱也

○開疔熱痛止膿稠不臭其脉洪數是則實腫之觀考至當

論也

○治療之法初發先以瓜拉皮或瓜拉皮膏貼其上
以瓜拉皮膏或瓜拉皮膏或瓜拉皮膏或瓜拉皮膏或瓜拉皮膏
宜批之重者以瓜拉皮膏或瓜拉皮膏或瓜拉皮膏或瓜拉皮膏
以瓜拉皮膏或瓜拉皮膏或瓜拉皮膏或瓜拉皮膏或瓜拉皮膏
赤熱腫邊赤散者以瓜拉皮膏或瓜拉皮膏或瓜拉皮膏或瓜拉皮膏
類塗而宜濕解之也是則熱實濕散之法也如此若不
散者以瓜拉皮膏或瓜拉皮膏或瓜拉皮膏或瓜拉皮膏或瓜拉皮膏

ゲニナス亦ゴムくス類隨夫病之輕重瘡物之大小淺
深而以可按之是而肉孰膿至者瘡物頭上イングエント
ハセリコニ微置可天^ラ之平其後漸膿近者下イングエント
ハセリコニアボストロウルニ等分而少可須貼瘡頭則破若
也若不破者アボストロウルニバルテイラハセリコニ加歟
亦ロフトウリヨニ加歟或針而可開之僅針安不用勿後
傳難^{ハナチ}和^{ハナチ}平上膏藥各同前也越而疔破膿流者メイキヤ
イングエントハセリコニ同アボストロウルニ等分合或反

アボスロニダアリ亦ハセリコニ各一味塗之可指之也上膏
藥隨症搗^シ旦^シ若有於肉膿^シ鬱^シ塞者イケヒニマアコニ亦
アルユニ或ヘレスピタル等藥加而可貼之平膏能以
搗膿形色要也若空滿多膿伏者ラブメント温頻可洗
之也其方^ヤア、クワロサアロニブラントヒイニヨ^{各一}
メラニステキス^{各二} 錢^一 アルワイ^一 錢^一 ラルトルキイ十^十 錢^一
アトロ^ニ合^ニ煎之^ニ彈洗斯也惟瘡種之要速以去膿^ニ政為
往也既膿去漏中清明而現正肉者イングエント^ニテキ

ステイビシニアホストロウルニ微加メイ千ヤ塗指疔上者
テヤバルニ搗而可瘥之平肉既大半生者テキステイビシ
以膏一抔滿者テヤバルニ可墮可生皮也斯諒萬種校療
之綱紀一定不易之妙論也

○按一切之瘡瘡開疔於阿蘭陀者恒能以針而其功
大也凡以針破平膿者多身疼也然術意初心之者正
禁針禁穴觀辨不調而不曾知淺深禁好診候故妄不
持焉若誤犯之則一生為癢病患輕者至重重者至
死也唯宜膿成熟而消發既皮薄者急采針以早速瀉

之平不曾可緩之也

○寒門

○阿蘭陀傳來曰從寒為生瘡物為陰屬虛也其生狀陰靜
身也而不赤腫堅而瘡根深大沉而累不高無敢痛或痒
或痛痒相兼蓋瘡瘡之初發痛者為實痒者為虛日久而
瘡浮稍々發痛以見消膿也其脉微而遲故能以補虛溫
寒和硬開鬱正為宗也誤妄灸貼於寒藥恐懷於寒瘡

之患謹之矣

○治療之法初發生當以溫散仕懸平所謂イニグエントバセ
リユシカシフラアド等分合之種一抔塗附懸也若不散
速立ゴブラストアルニシス或メノウルニヨウルバゼリコ
ハゼリチルホウロムステツベテコムハルセイセスラシコ
シヨニムスラケニブス或イニグエントバゼリコ同ラシコ
ロシヨシロンドロステイラ等附而溫補之如是尚不散者
早牽淨可膿也主藥立ゴブラストコムグス或テヤキロ

ロシコムグス爲上膏藥イニグエントバルサムバゼリコ
爲下伎而以可當之既膿成熟者早閉疔而可瀉膿不可
以於驟妄刺針儻恐得害也膿瀉而去漏中鮮明而現正
肉當於瘡之平則テキステイビシ或バルサムニキステイビ
ニバルサムフルフルス類用是也

○按是症初發仕懸溫散者阿蘭陀常以茲爲定方規矩
也然余於日本當之半寒半熱微冷之外多無利十中
八九當主溫也屏以有古今異變方士運氣人生虛實

飲食別歟學者宜思焉矣

風門

阿蘭陀傳來曰夫從風為生瘰物種大而固定頭大抵二種平一者色赤形如陽山疼痛甚惡寒發熱似瘰惡風其狀必躁動也亦一者初發不痛而後漸有為痛者其色白陰靜矣但赤者為風熱白者為風寒平几是症亦二辨平謂三者所謂風瘰風毒風濕是也蓋風毒者山底其毒在筋骨乃為虛不赤而膿散但遲也風濕者山高色赤滯其

毒有皮腫屬陽而為實乃安治也風瘰者身也而其毒有肉中半陰半陽半實半虛故此風毒其瘰高也且風毒風瘰者則近風寒矣但風寒者其形毒沉甚硬也風瘰風毒者雖沉不大石也風濕者近風熱矣但風濕者滯赤而光風熱者雖赤無光已耳諒其症雖相類委別之時遠異而不安治也右三症審見干諸書仕懸門故略干茲平夫風熱者初發瘰大色赤痛甚其脈浮而數

治療之法初發先ラリカモマイルラリロサアロシ

温類可塗之平尚執疼甚者則シリロザアロニ並シリ
 ヒヨウルシフリメンテ微加而温可塗之若不散者宜在
 懸温散所謂カンフラアドバセリコニ等其分合而附是也越
 而猶未消散者麤ハツバス可伴懸也

○ハツバス方

- 一 フロウリスカモマイル 二撮
- 一 ラアデキスウイヌ 二撮
- 一 フウリメンテ 二撮

- 一 フロウリスコウサ 二撮
- 一 ゴウトブロム 二撮
- 一 フウリフランシヤアロム 一撮
- 一 フランドヒイニヨ 二合
- 一 タルラマイル 見合
- 一 アセイテ 一合

○右水三合入煮爛如常而伸木綿可付之亦去渣允ラ
 メール不入而采其煎汁執沸初發温慰之而拔去

其風邪腫毒此乃良法也如是而尚不散者早可膿之
則五ニフラストムズラケニフラス 伸木綿以鑷開氣腫
一抔而付斯也若是而不計在散蓋是膏能去風邪和
氣血止痛故也不可一槩論之也猶不散不膿者早立
コフラストコムトス 為上膏藥イニクエントバセリ
コニ為下伎而以木綿可卷之也腫邊熱痛者以寒
冷解毒之膏藥速可散之如此而既膿至者早間石以
可瀉之也其後仕懸如常也凡風症多忌針若妄無禁

所禁沈之謀致之則一生有廢病之患禍不可旋於踵
也亦不用針而有不止宣場若誤遲億時膿毒攻筋骨
荒廢衰微手足轉筋身體為氣腫常膿水敗亂津液乾
枯而終至死者不少不可不詳也

○夫風寒者初發色不赤或腫或不滿或痛或不痛亦不敢
熱其脈浮而遲

○治療之法初發先ズリイベリコニズリメニテ並カモ
メイル加温純可墮之若是而無利則温散如前而可當

之尚末消散者^ハエ^ニブラストムズラゲニラス為^レ上膏藥下
 イニグエトハセリコニ^ラ塗^テ而可^レ温^ム之猶不散者^ハ早^クハツ
 ハス可^レ仕懸^セ也

○ハツハス方

- 一 ラアデキスニルバ 二撮
- 一 ラアデキスウイヌ 二撮
- 一 フウリアフセンテヨム 一撮
- 一 フロウリスカモメイル 一撮

- 一 フウリルウタ 一撮
- 一 ゴウトフロム 一撮
- 一 カチイル 五錢
- 一 ブラシドヒイニヨ 二合五夕
- 一 タルラメイル 見合

○右水入^レ三合如^レ前而可^レ當^ツ之是^レ而尚^レ不散者^ハ早^ク引^上可^レ
 膿上^ニエ^ニブラストコム^トス下^ニイ^ニグエ^ニトバルサム
 ハセリコニ^ラ一^杯可^レ塗^テ付^セ也既^レ膿^成孰^者治^療宜^ク前

大凡風病膿似雞子白合水間在微少片骨隨出膿水也亦如濕腫而以有於是膿也但以無於片骨而為異矣

○按諸瘡腫雖其變多而殊風症之異變萬化無極半蓋風者百病先使物固不變在眼心不速所也故藥方例亦應變而可隨宜是症誤分多矣大忌之也

○痰門

○阿蘭陀傳來曰痰為腫大如大桃菓實腫起堅硬其根丸

累久而無彭釘其色有赤有白蓋赤者為痰火白者為鬱痰也痰火者冷之而順鬱痰者溫之而可緩皆其狀類風腫也但風腫者其根不丸其形以不累久而為異也凡是症多端之似類骨槽癩瘰馬刀結核流注梅毒瘰核癰瘡等斯也蓋骨槽生耳之前後而或硬或和也癰瘡頸邊缺盆降根深筋縮也馬刀胸腋之間下而如蛤如馬刀也結核其形硬全體一生不速數核也流注數種相列也從經絡走行不定更在所也梅毒其形小其數一二也瘰核者

一、生其根淺其狀和也。痺瘤二種。痺者難治。瘤者安治。痺五所謂石瘰、肉瘰、筋瘰、血瘰、氣瘰斯也。各其根在筋骨也。瘤六所謂骨瘤、脂瘤、膿瘤、血瘤、石瘤、肉瘤斯也。其根各在肉也。皆委其論病門。故越略之。平營、瘰、痰、火、痰之二症述左篇矣。

○夫痰火之瘰症。其種高且色赤熱重時。惡寒發熱。其脈弦大而實。宜冷火煩痰也。

○治療之法。初發先以ススイビニ或テニススイビニヒガウニス以可散也。若不散者。ムズラゲニラス並テニススイビニ等分雜合附之。可和解也。若不散者。アルニス可溫和也。尚不散者。メラシノウスコメリクウリヨ。附化之。猶不散者。ハセリコニ或チルホウロム亦ハセリチルホウロム。テマキロニセシフライキス。可膿為膿者。可針。針後ウイキ指可瀉之。仕懸如常。亦是症輕者。ラリロサアロシラ、リカモマイル。ラリメルテロウロム。ラリリカノウス。ララリフ。ラシダアコ。ラリヒヨウル等油。可散之。

○夫鬱痰之瘰癧其瘰癧夜硬身也而不赤瘰癧時瘡根次第增益平日其脉弦而瀉宜温冷開鬱緩結也

○治療之法初發先ツリカノウスツリリテシメシテイ十
ツリニシクテイヤツリスヒツセイツリアチイジ
ツリコミイニヨ。ツリ人チクリ或エシフラストアルニ
ニス亦メノウルニヨウルチルホウロムスコロヒヨウロムメ
リロウトツシコロニヨシコロクスラシコロニヨニ等温
緩之若不散。ツヤキロニコムス。可膿之爲膿者開若

可瀉之其後仕懸如常矣

○濕門

○阿蘭陀傳來曰從濕爲生瘰癧物其形浮瘰癧滿之而勿頭其
色或赤或白皆瀉也而光但赤者爲濕熱白者爲寒濕
也蓋赤者大痛而如灸火白者取不痛能分寒熱以可治
焉是俗謂濕毒瘰癧者斯也

○夫濕熱之瘰癧者其色赤瀉而疼甚而寒發熱腹張身重
乃如水中於座其脉浮而緩唯宜開腠理冷熱而導瀉也

治療之法初發先ガニアラアドバセリヨニ等分^ラ而展^ル於
 木綿附之可^レ開毛^レ丸^レ冷^レ執^レ洩^レ濕也若^シ不^レ消者ムズラゲニ
 ステヘニスイヒニ微加可^レ附之猶^レ不^レ消者ハツハス仕懸^レ平

○ハツハス方

- 一 アンテカアキヨク 五錢
- 一 ウエキホウル 十錢
- 一 ゴイヌナアル 五錢
- 一 フロウリスコウサ 二撮

- 一 フロウリスカモメイル 一撮
- 一 フウリハツバアヘレス 半撮
- 一 ゲニブルホイキ 五錢
- 一 フラシトヒイニヨ 一合
- 一 アセイテ 八錢
- 一 アクワロサアロシ 五合
- 一 タルラメイル 見合

○右煮爛^ル而如^レ常以^テ可^レ附之平^ラ越^レ而尚^レ不^レ消者如^レ恒^レ牽^レ浮

可膿之仕懸推常平

○夫寒濕之瘧症其色白澤而光浮乃如望水面甚不痛手足不用腰痛身重其脉沉而緩唯宜溫寒濕濕也

○治療之法初發先ムスラゲニラス傳而可消之不散者下
ハセリコシ塗上ムスラゲニラス可打猶不消者ハツハ奇
取平

○ハツハス方

一 ラアデキスウイヌ

一撮

一 ラアデキススルトルキイ十

一撮

一 ラアデキスサルテイヤ

一撮

一 フロウリスロウサ

二撮

一 フウリメニテ

一撮

一 フウリアルトミニシヤ

半撮

一 フウリイヘリココ

半撮

一 ウエキホウル

十錢

一 ゲニフルボイキ

七錢

一 フランドヒイニヨ

二合

一 タルラメール

見合

一 アシクワカ子イル

一合

○ 右水入三合煎之煮爛如粳可當膏亦タルラメール朱入而去渣ヲフメント為而温慰之乃良法也如是不消者如恒引天可膿之仕懸如前也但是症誤勿多敬焉矣

○ 按是則寒熱虛實風痰濕之定論千載不易之妙術方

舉方全之寶方百種救療之要矩諸通與意之妙傳也
傳來曰瘡種之要唯有初中後云云諸症始起時前
先分寒熱虛實風痰濕而末膿者速消散之也若不散
者早引浮可膿也既膿成者速開疔出膿也若府肉粘
着於內者以強膿截藥去之平膿患中漏留伏者ラ
メント儻ト以頻可洗采之也膿去亦肉現者可疼之也
肉生於一抔可作皮也凡疔種始中終之要皆如是也
其術切在清復恰如神妙唯宜審瘡物之高陷氣血之

虛實淺深乾潤而以先平前色脈診考宗五善七惡矣
然後決斷於生死吉凶昭藥性而機之外固於由是勝
也學者於是粉骨糞三而折肱不極深研幾至更未觀
難病正不得於的利之切者也日用敬之審之矣

